**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第９回　（２０１４年１２月２日）**

**・第９回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(10)頁**

・📖 p(10)　**霊性の師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴**

・📖（つづきを読む）・・・さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、激しい放棄、純粋さ、誠実さ、**遊び心、…**

（解説）

**Love of fun　──**　日本語で何？　「遊びの心」？　──ちょっとニュアンスが違いますね。

funというのはたとえば、会話の中のジョークとか、皆さんが笑い転げるような話をするとかの意味合いです。その場合のfunは「遊び」ではない。「遊び」というと、たとえば、シュリ―・クリシュナは遊びが好き。しかしシュリー・ラーマクリシュナはその遊びではなく、話のしかたがおもしろいということ、とてもファニー・ジョーク（funny joke）が上手だったということ、その意味です。

『福音』の中に、「みな笑う」という描写がたくさん出てきます。fun の意味はその意味です。

（参加者）日本語で「遊び“心”」というと、ジョークを言ったりすることも入る気がします。ユニークさを持っている感じがありますけど・・・。

そうですか、その言葉で、今言ったfunのイメージが浮かびますか？

ＯＫ、私の言うfunのイメージは、コミュニケーションのとき、joy**よろこび、明るい、おもしろい、冗談──それらを合わせてfunのイメージです。**

『福音』の「面白い」のひとつは、**話の内容がおもしろい**。もうひとつは、ジェスチャーやポーズを交えた**話のしかたがおもしろい**。『福音』の中にその例はたくさんありますね。

ひとつの例。

ある女性歌手のマナリズム（mannerism：癖）の話。

その歌手はキールタンを歌うとき、お客様に自分の飾りをちらっと見せる癖があった。（マハーラージ、ポーズしながら説明。笑い）お客様は飾りを見たいわけではないが、その歌手は見せたい。英語ではexhibitionismエギジビションニズムと言います。日本語ではなに？　（参加者）自己顕示欲。自己宣伝癖。

それをシュリー・ラーマクリシュナは真似して信者たちに見せました。そしてみな大笑い。

本物ではない。エギジビションニズムですからにせものでしょ？　ほんとの性格はきれいではないですね。それをシュリー・ラーマクリシュナは批判しています。飾りを批判しているのではない、エギジビションニズムを批判しています。飾りはふつう、良くないのはその考え。シュリー・ラーマクリシュナはその考えを批判しています。

では、批判する目的は何ですか？

ひとつは、女性歌手の考え「見せたい、見せたい」は良くないと教えるため。

もうひとつはなに？　どうして、若い信者たちに、物まねやおもしろい話を──ときどき世俗的な話も交えて──していたのでしょうか？　この女性歌手の話は世俗的です。神聖な関係の話は何もないのに、なぜ？

（参加者）話の印象を深めるため？

それもある。いろいろな例や物語を引用するのはその目的です。

しかし、物まねやポーズを交えながら、世俗的なおもしろい話をする目的は、（シュリー・ラーマクリシュナは自分で言っていました）若い信者たちはいつもシリアスな話だと、とても大変みたいだからです。**彼らの気分をフリーにするため**、ときどき世俗的でおもしろい話もしたのです。

ヴェジタリアン・レストランにハンバーグがありますね。肉は使わないが、豆腐などを使ってハンバーグの形で出されます。あれと同じアイデアです。ハンバーグというと皆さん好きなイメージですね。だからそれに近いものをつくって出しています。シュリー・ラーマクリシュナも、本当の世俗的なものは教えたくない。ですがちょっとアイデア出しています。そうすると聞いている人がラクになる。**いつもシリアス、シリアス、哲学、哲学となると大変。それを集中して聴きつづけるのは大変ですから、ときどき心をフリーにして、リラックスさせて、知性と心のリラクゼーションのために、いっぱい笑います。そのあと、また、神聖なところに戻ります。──これは、「教える」ひとつの方法です。**

信者たちはたくさん笑い、そして頼んだ、「もうこれ以上笑うことはできません。お願いですから、もうやめてください、やめてください」（笑い）そのくらい頼んでました。ブラフマーナンダジ（そのときとっても若かった）は、床を転げながら笑って頼んでました（笑い）・・・それくらい、タクールはたくさん信者たちを笑わせてました──とってもlove of funです。そしてまた神聖に戻ります。

もうひとつの例。

『福音』の中の、「ゴパール！　ゴパール！」の話、覚えていますね？

**（👉『福音』p707より引用）**

**あるところに金細工師の店がある。そこの職人たちはなヴィシュヌ派信者として知られている。彼らはくびにじゅずをかけ、ひたいにしるしをつけ、手にはじゅずを入れた袋を持っている。声高く神の御名をとなえており、ほとんどサードゥと呼んでもよいくらいだ。ただパンを得、妻子を養うために金細工師として働かなければならないのだ。彼らが信心深いときいて、おおぜいのお客がこの店にやって来る。ここでは、自分の金や銀がごまかされるようなことはない、と思うからだ。店に入ると、彼らは職人たちが口にハリの御名をとなえながら手で仕事をしているのを見る。客が店の中にすわるやいなや、職人の一人が、『ケシャヴァ！　ケシャヴァ！　ケシャヴァ！』と叫ぶ。数分後にもう一人が、『ゴパール！　ゴパール！　ゴパール！』と言う。彼らがしばらく話し合っていたと思うと、今度は三番目の男が叫ぶ、『ハリ！　ハリ！　ハリ！』そのあいだに客たちはほとんど取引をすませている。そのとき、四番目の男が、『ハラ！　ハラ！　ハラ！』と叫ぶ。客たちは店の人びとの信仰と熱意に深く感動し、かれらにお金を渡しても間違いはないと思う。彼らがだますはずはないと信じるのだ。**

**だが、このかげに何があるか知っているかね。客が来たときに、『ケシャヴァ！　ケシャヴァ！』と言う男は、『彼らは誰だ』と言っているのだ。つまり、彼らがどのくらい賢いかを知りたがっているのだ。『ゴパール！　ゴパール！』と言う男は、じつは、『彼らは雌牛の群れにすぎないと思う』と言っているのだ。『ハリ！　ハリ！』と言う男は、『彼らから盗んでもよいか』と言っているのだ。彼は、この人たちは雌牛の群れのようなものだから、盗むことができるとほのめかしているのだ。『ハラハラ』と言う最後の男は、『よろしい。盗め』と答えているのだ。このお客さんたちは雌牛の群れのような連中だから、大丈夫盗んでよろしいと言っているのだ（本文注：これら四つの神の名は、ベンガル語でそれぞれ、『彼らは誰だ』、『牛の群れ』、『盗んでも良いか』、『よろしい』の意味を持っている）。ここにもまた、神への信仰のとても深い、敬虔な連中がいるではないか」（みな笑う）**

（👉『福音』p972にも同様の物語）

の飾りのデザインに飽きると、お店に行って金を溶かして新しいデザインに変えるのは、インドではとても普通です。でも、非道徳的な店員は、金を溶かしたときに金を少し盗んで代わりに金ではないものを入れて、同じ重さにして作り変えます。

この話は、外から見ると信者の店。いつも「ゴパーラゴパーラ」「ハリハリ」「ハラハラ」と神様の名前を唱える神聖な人びとの店。しかし本当はそうではない。神様の名前を使って金を盗んでいます。外からは敬虔な信仰者に見えますが、それは見せかけの信仰心──シュリー・ラーマクリシュナはこの物語を使っておもしろく語っています。これfunでしょう？　このような物語は『福音』の中にいっぱいあります。

　私が言うfunとは

1. おもしろい物語を引用する
2. （ことばが巧みで）会話がおもしろい
3. （ジェスチャーやポーズが巧みで）話の状況がおもしろい

ということ。そしてこれらの結果がfunです。

・📖（p(10)つづきを読む）・・・さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、激しい放棄、純粋さ、誠実さ、遊び心、**甘い声、さらに甘くとろける歌と踊り、**・・・

（解説）

**Sweet voice**──シュリー・ラーマクリシュナの声はとってもとっても甘い。

そして**Sweeter song and dance──**もっと甘かったのは歌と踊り。

シュリー・ラーマクリシュナの弟子の中に、甘い声のひと、いました。サーラダーナンダジは歌もとても甘かった。それからシヴァーナンダジも。けれども弟子たちの考えでは、スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）の声が一番。そしてタクールはもっと！　Ｍさんも言っています、「**一番はタクール、次がスワーミージー**」──それです。

シュリー・ラーマクリシュナの歌はベンガル語でした。トター・プリー（シュリー・ラーマクリシュナに出家のイニシエーションを与えたサンニャーシー）の母国語はヒンディー語。だからトター・プリーには歌の意味は十分わかりませんでした。それでもシュリー・ラーマクリシュナの歌を聴いて、トター・プリーは泣きました。（👉『福音』p328）

完璧に歌えば、言葉の意味がわからなくても、インパクトが出て、波動が出るのです。シュリー・ラーマクリシュナの歌にはどうしてそれほどのインパクトがあったのか？　それは甘い声だけが理由ではありません。

シュリー・ラーマクリシュナはいつも言っていました。**私は人を喜ばせるために歌っていません、神様を喜ばせるために歌います**。ふつうの歌手は、お客を喜ばせるために歌います。しかしシュリー・ラーマクリシュナの歌の目的は全然違う。神様、マザー・カーリーを喜ばせるため。それがひとつ。

もうひとつの大きな原因は、**歌の内容と自分が、完全に同一化していた**ことです。我々が歌うときを想像してみてください。１００％、歌と同一化して歌うというのはとても珍しいことではないですか？　２０％、５０％はあるかもしれない、でも、１００％ではないですね。シュリー・ラーマクリシュナは、誰が聞いているか、どこで歌っているかはまったく気にしませんでした。歌と自分がひとつになって歌いました。だからインパクトが深いのです。

私は少しだけ歌の経験があります。時には人に頼まれて、時にはひとりのとき歌います。それを比べてみると、ひとりで歌っているときに、より良いフィーリングが出ているのです。そのとき少し、私は歌と同一してますから。しかし人に頼まれて歌うとその同一があまり出来ないみたいです。そのふたつ、何が違います？

**同一化して、とても深いフィーリングで歌っているときに、のどから、特別なメロディーが出るのです**。ふつうのメロディーももちろん出ています。そのうえに、別の種類の音（ちょっと説明が難しいです）が出ているのです。

たとえばとても歌がうまい歌手。同じ歌で、同じように上手に歌っているのですが、あるプログラムはとても素晴らしいヴァイブレーション（波動）、別のときはそうでもない。そんなことがありますね。有名な歌い手でも、あるときは素晴らしい、別のとき、そうでもない。

**シュリー・ラーマクリシュナは、いつも、その波動が出ていました。“いつも”、“中から”**。「中から」とは、「歌と自分がひとつになって」という意味。すると、中から出ます。**ひとつはのどから、もうひとつは中から。意味が違います。中からの意味は、感情、ハート。感情、ハートから出ると、インパクトが違います。全然違います**。

シュリー・ラーマクリシュナの歌は、どうしてそんなにインパクトがあったのか？　なぜなら、いつも、歌と、歌の言葉と、メロディーと、そして自分がひとつになっていたからです。甘い声だけでインパクトは出ません。それは歌だけではなく、楽器の時も同じことです。

（参加者）コンセントレーション（集中力）も大事ですか？

それだけではなく、さっき言いましたね、**フィーリングス**！　コンセントレーション、フィーリングス。フィーリングは作ることができないでしょう？　フィーリングは、「出る」ものです。いつ、出るのか？　**歌と、言葉と、言葉の意味と、メロディーと、そしてシンガー、それらがひとつになったとき**。そのときプログラムはとってもビューティフルになります。ミュージシャンとシンガーのために、これはとても大切なことです。しかし、皆さんそこまでわからない。メロディーを完璧にすることを一番に考えていますが、実は、いま話したことがとても大事です。すると、集中していない聴衆でも、１００％耳を傾けます。なぜなら、とってもスぺシャルなヴァイブレーションですから！

**シュリー・ラーマクリシュナの歌は、いつもそれほどのものでした。Always（いつも）no exception（例外なく）**。

**Sweeter song and dance──そして、シュリー・ラーマクリシュナの踊り、一回見て忘れません。**

ふつうのダンスは、（歌のときと同じ）ほかの人を喜ばせるためです。

　しかしダンスの源は何ですか？

心の中のフィーリングがいっぱいになると、それを表現したい。心だけでなく、言葉だけでなく、身体で表現したい。それがダンスです。**中の喜びをあらわす**。ひとつの方法は歌です。が、歌はのどだけでしょう？　身体の全部を使ってあらわすのがダンスです。

**シュリー・ラーマクリシュナのダンスの源は神様。神様を愛して、神様のことを考えて、とっても喜んで、至福になって、それをからだで表現したい──それがシュリー・ラーマクリシュナのダンスです。**

**シュリー・ラーマクリシュナのダンスの源は神様です。神様はサッチダーナンダでしょ？　絶対の真理、絶対の存在、絶対の至福です。その「至福」にコンタクトして、その至福を表します、身体で。それがシュリー・ラーマクリシュナのダンスの源です。だからインパクトが、あれほど美しい・・・Devine神聖・・・です。**

ふつうのダンスは、肉体的、感覚的。つまり、その喜びはただの感覚的喜びで、心と感覚のレベル。神聖ではない。そしてそのダンスを見る人びとのリアクションも、肉体的・世俗的インパクトです。なぜなら源が世俗的ですから、インパクトも世俗的になる。

シュリー・ラーマクリシュナのダンスと、どれくらい違うか、わかりますね？

**シュリー・ラーマクリシュナのダンスの源は神聖です。レベルが神聖です。それだけではなく、神様と自分がコンタクトしている。とっても喜びの状態。その喜びを身体で表している。だからそんなにビューティフル。そして神聖。スピリチュアルだけではなく、とってもとてもビューティフルです、美しい。**

シュリー・ラーマクリシュナのダンスの描写はいくつかありますが、ほとんどの場合は、とてもゆっくり、Very slow。そしてナチュラルです。

　とてもきれいな川を泳ぐ魚を想像してみてください。魚はとってもナチュラル（自然）に喜んで泳ぐでしょう。シュリー・ラーマクリシュナのダンスもそれくらい自然です、Very natural。たまにstrong danceもあります（👉『福音』p507）が、ほとんどの場合、とてもゆっくりなステップ。

・📖（p(10)つづきを読む）・・・さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、激しい放棄、純粋さ、誠実さ、遊び心、甘い声、さらに甘くとろける歌と踊り、そして**最高に甘美な微笑み**が、師を魅力あふれる個性豊かな指導者にしていた。これを**写真でとらえつくすことはとうていできない**。

（解説）

**…sweeter song and dance along the sweetest smile that no photograph capture.**

日本語で何ですか？

（参加者）**「そして最高に甘美な微笑みが、師を魅力あふれる個性的な指導者にしていた。これを写真でとらえつくすことは到底できない」**

写真と、会ったときと、全然印象が違うことがあるでしょう？（笑い）ふつうの人がそうならば、シュリー・ラーマクリシュナについてもそれが言えませんか？　タクールの写真。スワーミージーの写真。写真と本人、全然違います。

たとえばスワーミージーの目。さまざまな人が言っています、書いています、スワーミージーの目（瞳）とっても素晴らしい。でも写真を見てもそれほどわからないですね。ちょっと目が大きい、その印象だけ。ある俳優の目が大きいのと同じ印象かもしれない。しかしそれは大きいだけではないのです。でもそれは本物を見ないとわからないですね。

また、タクール（シュリー・ラーマクリシュナ）の歌のレコードがあったらよかったのに、と思うでしょう？　（参加者、うなずく）しかし、もしあったとしても少し印象を与えるだけです。

インドにいた頃、私は西洋の音楽はほとんど聞かなかった。いつもインドの音楽でした。でも日本に来てあるコンサートに行った。そしてライブで聞いて、レコードではおもしろくなかったその音楽の印象が一変したのです、とても美しいと。

レコードとライブの印象は同じですか？

（参加者）違います。

全然違います。ライブ、とても良かったです。ビデオでもその印象は出ない。**シュリー・ラーマクリシュナの歌、そして、スマイルも同じこと**です。

**シュリー・ラーマクリシュナの写真は３枚（だけ）あります**ね。

1. **（『福音』巻頭の口絵写真に掲載されている）**この写真はドッキネッショルで撮りました。
2. **（『福音』真ん中の口絵写真に掲載されている）**ケシャブ・チャンドラ・セン邸で撮影されました。ケシャブの信者たちがまわりにいて、タクールを支えているのがフリダイ（シュリー・ラーマクリシュナの甥。当時の侍者）。
3. **（『福音』最後の口絵写真に掲載されている）**これは写真スタジオで撮りました。シュリー・ラーマクリシュナに写真スタジオを見せたかったので連れて行って、そこで撮りました。

この写真の中で、①がもっとも霊的な写真。サマーディに入り、身体意識が全くない状態です。身体のコントロールができない状態。

ところでその写真はどのように撮られたか、知っていますか？

弟子たちは、シュリー・ラーマクリシュナの写真を撮りたいと、いつも頼んでいました。でもタクールの答えは「いいえ」。肉体は永遠のものではないから、それを撮影することには同意しなかったのです。でも信者たちは熱心に望みました。師を（写真の礼拝を含め）さまざまな形で礼拝したかったから。

あるとき、バーヴァナートがコルカタから写真屋さんを連れてきて、ドッキネッショルのタクールの部屋でお願いしました、「写真屋さんを連れてきたので、ちょっと写真を撮らせてください」。しかし「いいえ」と言ってタクールは自分の部屋から出ていって、ヴィシュヌ寺院の階段に座りました。バーヴァナートはとても悲しい様子でした。スワーミージーはそんなバーヴァナートに「どうして悲しがっているのですか？」と聞き、事情を知りました。スワーミージーは、「ＯＫ、ちょっと待っていてください。私が写真の準備をしますから」と言って、タクールのところに行って、そこで神様の話をしました。神様の話をすると、タクールは、すぐ、ニルヴィカルパ・サマーディの状態に入ります。そしてそのとき、バーヴァナートを呼び寄せて、撮影したのです。

後日、スワーミージーはタクールにその写真を見せました。タクールは怒りませんでした。そして言いました、「この状態はヨーガのとっても高い状態にはいった状態の写真です」と。

ホーリー・マザーもその写真の複写を礼拝していました。それをタクールが見つけて、「なぜその写真を礼拝しているのですか？」と尋ねました。そのとき、ホーリー・マザーはちょっと怖かった・・・なぜならふつう、死んだあとにその人の写真を拝みますから。しかしタクールは、「ＯＫ、心配しないで。もっとあとにはみなさんが、この写真を礼拝するでしょう」と言いました。そして今、たくさんの人びとがこの写真を礼拝している。それは本当になったでしょう？

の写真は、まずひとつは、一番高いサマーディに入った写真であること。そして座った唯一の写真であること。そしてこれが最初に撮影された写真であること。

そのあと、もう一枚写真が撮られました。弟子のラームチャンドラ・ダッタが撮ったもの。でもその写真をタクールに見せたら「とても怒ってるみたいに見える」と言われました。ラームチャンドラはタクールがその写真が好きではないことを分り、全部、ガンジス川に捨てました。（参加者、ため息）それが２番目。

３番目が②の写真です。

サマーディに入ったときの喜びがどれほどのものか！　この写真にその喜びの状態がよく出ていると思います。とっても笑い、とっても喜び、とっても特別な至福な状態。（これは『福音』の表紙にも描かれています。それは、あるアメリカ人のお坊さんが、無意識で、タクールの顔を描いたもの。喜びの状態はこの絵でもわかります）

その顔は、とても特別な至福な状態です。

私の考えでは、多分これがサヴィカルパ・サマーディの状態に入ったときの顔。

①の写真はニルヴィカルパ・サマーディで、瞑想する人、瞑想、瞑想の対象がひとつになっています。だからサヴィカルパ・サマーディと少し違います。

サヴィカルパはとっても深いけれども、瞑想の対象と自分が少しだけ異なります。サヴィカルパの状態は、自分の心の中に神様を見て、そしてとても喜んでいる状態。

心の中に神を見て喜んでいる、ということは、神さまと、神さまを見ている私がいる、ということになりますね。神様と私は、別々、ということになりますね。この写真はその状態。神様を見て、たぶん、自分の心の中にマザー・カーリーを見て、とっても喜び。それが、サヴィカルパ・サマーディです。私とマザー・カーリー、別々。ですが、とっても喜び。②が多分その状態です。

この写真でも分るように、（歌やダンスより）**the sweetest smile──タクールの笑顔が最も甘かった。**

タクールのスマイルは（皆さん言ってます）とってもとてもビューティフルなスマイルでした。タクールは話のとき──　**smile on the lips**　──そのスマイルがいつもありました。皆さんはとても好きでした。タクールのそのスマイル。

タクールは知っていました、皆さんが自分のそのスマイルが好きだということを。そしてそのようなスマイルはどうして出来たのかも。

タクールは修行時代パンチャヴァティでいろいろな実践をしていましたね。そのころ、さまざまな神様のヴィジョンを見ました。

いちばん最初のヴィジョンは、シーター・デーヴィー、ラーマーヤナ叙事詩のラームチャンドラの奥さん。シーター・デーヴィーはとても美しい美人で、そのスマイルもとても美しかった。

タクールは言っていました、「**いちばん最初にマザー・シーターのヴィジョンを見ましたから、その影響で、マザー・シーターの二つの特徴が私の中に入りました。ひとつはマザー・シーターのスマイルが私のスマイルになりました。もうひとつは、マザー・シーターの悲しみ苦しみ**、いっぱいありました。私も悲しみいっぱい──タクールは貧乏でした。子供のころお父さんが亡くなりました。コルカタに来てお金を稼ぐために礼拝をしました。長年大変な実践をしました。一番上のお姉さんの息子アクシャイが亡くなりました。あとで癌になりました──。シーターも同じ。大変なことがいっぱいありました。

もうひとつはスマイル。マザー・シーターから私に入りました。ビューティフル・スマイル。

・📖（p(10)つづきを読む）・・・**師を魅力あふれる個性豊かな指導者にしていた**。

（解説）

**…sweeter song and dance along the sweetest smile that no photograph could capture made him a unique and attractive teacher.**

シュリー・ラーマクリシュナはとてもユニーク、特別、そしてアトラクティブ、引きつける。その種類の「神聖」。

・📖（p(10)つづきを読む）**師はひたすら甘美な存在であり、訪問者に惜しげもなくふりまかれるらかな歓びの権化そのものであった。**

（解説）

タクールは、**joy 、sweetness、**それから**pure joy**（純粋な喜び）。それだけではなく**、みなさんにそれを配っていました**。「皆さんに配る」の日本語は？

（参加者）「訪問者に惜しげもなくふりまかれる」だと思います。

ＯＫ。

皆さんどうですか？　シュリー・ラーマクリシュナの歌、踊り・・・

（参加者）タイム・マシンに乗って実際見てみたいです。

ＯＫ、出来ます。願いがとても強かったら、シュリー・ラーマクリシュナは叶えます。

（『福音』勉強会第９回、以上）